

## 西伊豆健育会病院 外来・透析 准看護師 鈴木千晴

功 績	夜間、ご近所でクモ膜下出血により心肺停止となった方へ心肺蘇生をおこない、心拍を再開させご家族・ご親戚との最期の時を過ごしていただくことができた功績
推 薦 者	仲田 和正
推 薦 理 由	鈴木千晴は常日頃から透析患者さんが急変した際に、即座に対処できるようBLSのトレーニングを積んでいます。今回、深夜、隣人が急変し助けを求められた際に、臆することなくBLSを実施し、救急隊到着前に心拍を再開させることができました。今回、『命を助きたい』との使命感の下、傷病者に対応した鈴木の治療者としての「あるべき姿」を他の職員の模範といたしたく理事長賞に推薦いたします。

### 内 容

4月初旬午前2時頃、自宅のトイレで倒れている妻(S.Oさん)を夫が発見し、同居の娘さんが隣に住む透析スタッフの鈴木に助けを求めました。鈴木は寝起きのまま隣家に行き、倒れているS.Oさんに駆け寄り呼吸の確認をしたが呼吸は認めらず、即座に胸骨圧迫を開始しました。鈴木が、とにかく助けなければとの一心で胸骨圧迫を継続すると、救急隊到着前に心拍が再開しました。S.Oさんは当院に搬送後、MRI検査でも膜下出血の診断となり入院となりました。

鈴木は入職17年目で、外来勤務を経験後、透析で勤務しているベテラン看護師です。とても明るい性格で、透析患者さんのフットケアや連絡ノートの提案をするなど業務にも常に前向きに取り組んでくれています。また透析患者さんは急変リスクが高く、どんな時でも対応できるようBLSのトレーニングを積み、これまでも何度か透析室でコードブルーが発令されましたが、中心となって対応してくれています。

S.Oさんはくも膜下出血の最重症であり非常に厳しい状態が続いていました。ご家族はS.Oさんに付き添い足や手をさすり、S.Oさんも何とか生きていて欲しいという家族の気持ちに込めているように足や手がびくりと動くこともありました。更にS.Oさんが、とて可愛がっていた遠方のお孫さんも駆け付けて面会を果たすことができました。こうして大切な人に見守られながらS.Oさんは天国へ旅立ちました。ご家族からは最期のお別れができて思い残すことは無いと言っていたことができました。

今回、効果的な胸骨圧迫を実施し心拍再開となったのは、鈴木が日頃から頑張っているBLSのトレーニングの成果でもあります。更にS.Oさんご家族が最期の時間が持てたのは、鈴木の「命を救いたい」という使命感でもあり、この使命感は毎日の病院での業務で培われたものだと思います。私は職員にBLSの重要性、大切さについて全体朝礼や質の委員会で伝えており、その気持ちがこのように形になっていることに大きな喜びを感じています。

今回、深夜に誰の力も借りず、一刻を争う中、「目の前の方を救いたい」という一心で心肺蘇生法を施し、見事蘇生に成功し、結果、ご家族との最期の時をもって頂くことを可能とした鈴木を理事長賞に推薦致します。